



## 喜多埜

## みやげのはなし

「里の土産になにもろた でんでん太鼓に  
笙の笛」子守歌にも歌われる「土産」ですが、  
各地の旅行に行った際には親しい人へのお土  
産選びが旅の楽しみにもなっています。

この「土産」という漢字ですが、これは漢  
字字の見地からいっても当て字であり、「土地  
の産物」に「みやげ」の音を当てたものとさ  
れています。では、本来の「みやげ」とはど  
のような字を書いたのでしょうか。それは「宮  
筥」と書いたといわれる説が現在は最も有力  
となっています。

この「宮筥」とは何なのかというと、御札  
を入れる為の箱の事でした。現代の旅行は各  
地の名所をまわったり買物するだけの「観光  
旅行」ですが、近世まではどこかの社寺を参  
拜する為の「参詣旅行」が主でした。

近世、そういった参詣旅行で最も賑わった  
のが伊勢神宮であり、伊勢神宮で受ける御神  
札は特に御利益があるとされ、「お伊勢さん」  
と親しみを込めて呼ばれ、家族や近隣の知人  
の分まで併せて受けて帰郷しました。

当時は今のように鞆などありませんから、  
風呂敷のようなもので包んで持ち運ぶ事が多  
く、そのままでは紙の御神札は帰郷する頃  
には汚れてしまいます。そこで木の箱に入れて  
汚れないよう持ち帰るようになり、この木の  
箱を「宮筥(筥は入れ物の意)」と呼んだそう  
です。冒頭の唄も伊勢参りをし、子供の土産に  
玩具を買った人を風刺した唄であり、当時の  
人の思いが「みやげ」一つに詰まっています。

## 西の市

関西人にはなじみの薄い行事ですが、関東  
人にとっては大阪の「えべっさん」に匹敵す  
るお祭りが西の市(とりのいち)です。その由来  
は、ヤマトタケルノミコトに縁のある社寺(鷲  
神社など)の縁日にあたる十一月の西の日に行  
われた祭礼が始まりとされ、元来は武運長久  
を祈るものでしたが、次第に豊年豊作を祈る  
農耕儀礼となり、江戸の都市化と共に、開運  
招福、商売繁盛を祈る現在のような形になっ  
たといわれています。この市で売られている  
「熊出」は農耕儀礼の頃の名残とされ、福を  
掻き集める縁起物として親しまれています。

## 十一月の旬

神事の際などに神さまにお供えする食べ物  
等の事を神饌(しんせん)といい、米・酒・塩・  
水などのお供え物が基本の神饌となります。

本来、順番や置き方など色々作法があります  
が、古来より日々の感謝を込めて「旬のもの」  
をお供えする素直な心根こそが、神さまが一  
番お喜びになられるといわれています。

この十一月に旬を迎えるものとして、

## 【野菜】

春菊、ネギ、山芋、牛蒡、ホウレン草など。

## 【果物】

リンゴ、栗、早生ミカン、キウイなど。

## 【魚介類】

秋刀魚、カキ、ホッケ、銀鮭、クエなど。

## 【その他】

大地に冬の気配が漂い、下旬からは紅葉が  
目にとまります。黄色く染まったイチヨウを  
見ながら銀杏を酒のアテに晩秋を過ごす贅沢  
さは、日本人で良かったと思う瞬間でしょう。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

a u、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

